

科目（講座名）		世界史 B	4 単位	必修選択
教科書	改訂版「詳説世界史 B」（山川出版社）		担当教諭	
副教材	「最新世界史図説タペストリー」（帝国書院） 「詳説世界史整理ノート」（山川出版社）			

学習の目標

大学入試に対応出来る基礎学力を養成する。

授業内容

講義・演習を中心に行う。可能な限り I C T などの視聴覚教材を利用する。

学習方法

授業前に教科書を通読しておく。授業中は「詳説世界史整理ノート」に記入する。

評価の観点

関心・意欲・態度	歴史上の事件や人物について、教員の話をきちんと聞いている。 予習復習をおこなっている。 積極的な授業参加が見られる。
思考・判断	歴史上の地名・人物について思考をめぐらし、それらがどのように現代社会形成の要素となったかを理解している。 世界史的な事象に対し原因と結果に着目しその内実について正確な判断を下せる。
技能・表現	板書を「詳説世界史整理ノート」に記入している。
知識・理解	世界史を形成した事件や人物について十分な知識と理解をし、それらが現代社会を構成するもととなっていることを理解している。

評価方法

上記の観点について、定期考査及び平常点（提出物、授業態度、その他）を含め、年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	4	文明以前の人類	先史の世界	文字による記録のない先史時代の理解が歴史時代の理解に必要不可欠であることを理解させる
	5	1 4	オリエント世界と東地中海世界	オリエント世界 ギリシア・ヘレニズム	オリエント世界で育まれた文化が後世の西洋文化に大きな影響を及ぼし、ギリシア・ローマ・キリスト教が西洋文化の中心であることを理解させる
	6	1 4	地中海世界と西アジア	共和政ローマ・帝政ローマ キリスト教 イラン・インドの古代国家	イラン・インドが独自の発展をとげたことを理解させる
	7	6 1 4	南アジア世界 東アジア世界	インド古代国家の変遷と東南アジア 中国古代文明の成立 秦・漢帝国の中国統一 魏晉南北朝時代 隋と唐	中国の歴史をたどり、同時に東アジアの様々な民族や諸国家が中国と深く結びついていることを理解させる
2	9	1 2	東アジア世界の変容	五代・宋と北方民族の進出 モンゴル帝国と元 明と周辺諸国	中華帝国の権威の下で保たれてきた国際秩序が唐帝国の衰えと共に弱体化し、北方諸民族の自立を促したことを理解させる
	10	1 6	イスラーム世界の成立と発展	清と周辺諸国 イスラーム世界の形成 イスラーム世界の拡大 ティムール・オスマン・ムガル帝国	征服者であるアラブ人の宗教であったイスラーム教が、征服された人々の間に広まり世界的宗教になっていったことを理解させる
	11	1 8	ヨーロッパ世界の成立と変容	ヨーロッパ世界の成立 ビザンツ帝国と西欧封建社会	西ヨーロッパと東ヨーロッパはそれぞれキリスト教を中心としながらも、独自の発展を遂げたことを理解させる
	12	1 0		中世の文化と封建社会の解体 ヨーロッパ諸国の中央集権化	
3	1	3 2		ルネサンス 大航海時代 宗教改革	ルネサンス・大航海時代・宗教改革などを通じてヨーロッパ内部にも大きな変動がもたらされたことを理解させる。
	2				
	3				